

平成25年度

時間外電話相談
「育児もしもしキャッチ」
—相談情報分析結果報告—

あいち小児保健医療総合センター

あいち小児保健医療総合センター保健センターでは、平成13年11月のオープン時より、県民の育児不安を軽減し、健やかな子育てを支援することを目的に、時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」（以下、「育児もしもしキャッチ」）を開設している。

開設当初は、月曜日から金曜日まで開設していたが、当センターの外来診療日の変更に伴い、平成15年5月より火曜日から土曜日に相談日を開設している。

「育児もしもしキャッチ」

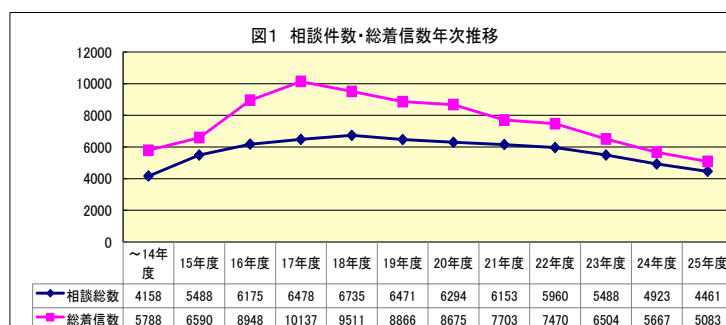
主な相談内容	母子健康手帳を活用する年齢層の母等を対象に、健康や育児について
開設日時	火曜日から土曜日 午後5時から午後9時まで（4時間）
相談担当者	保健師、助産師、看護師等の専門相談員が、毎回2～3人で対応
相談体制	当センターの保健師1名が相談終了まで勤務する体制をとり、困難な相談への助言、連携の必要なケースを地域に繋ぐ役割等、相談員をバックアップしている。
相談記録の記載方法	相談は原則匿名としているが、相談終了時に相談者の住所、相談経路は聞いている。電話相談員が相談記録を記載し、予め設定されている「相談内容分類コード」に従い内容の分類を行っている。

【平成25年度の事業内容】

平成25年4月1日から平成26年3月31日までに寄せられた相談情報を保健部門のシステムに入力し、地域別利用数や相談者、相談時間、相談内容等に注目して分析した。

1 相談総数・総着信数について

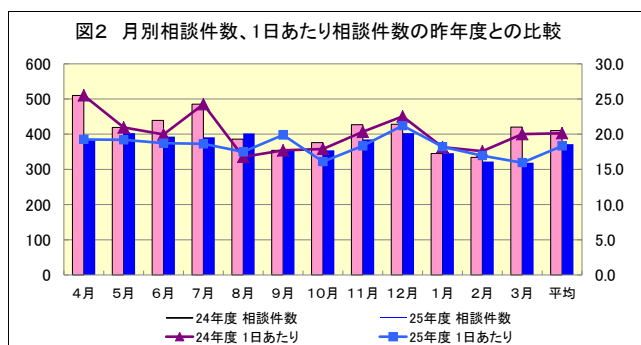
期間中の相談総数は4,461件、総着信数（電話に応答中のため応答できなかった件数をあわせたもの）は5,083件であった。相談件数は昨年度より462件減少しており、平成14年度（平成13年11月から平成15年3月以下平成14年度と表記）以降の相談件数は、平成18年度まで増加し、その後は平準状態となり近年は減少の傾向にある。また、平成17年度がピークであった対応不能件数が減少してきており、今年度の対



応不能件数は 622 件で昨年度の 744 件より 122 件減少しているものの依然として 1 割強（12%）の相談に対応不能の状態である（図 1）。

月別相談件数では、5、12 月が最も多く 403 件、3 月の 319 件が最も少なく、月平均 372 件であった。昨年度の最多 510 件、最少 334 件と比べばらつきの幅が小さかった。

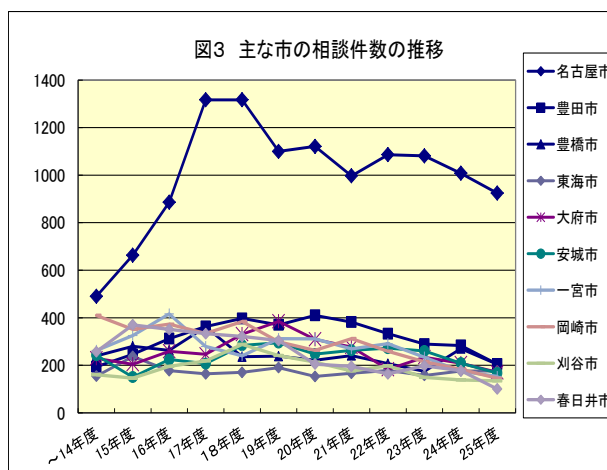
1 日当たりの件数にすると、昨年度平均 20.1 件が 18.3 件へと減少している（図 2）。



2 地域・経路について

(1) 利用者の居住地について

相談者の居住地が把握できた 4,320 件を分析した。相談は県下ほぼ全域から寄せられており、市町村別では、名古屋市からの相談件数が 924 件と最多で豊田市、豊橋市、東海市、大府市、一宮市、岡崎市と続いた。名古屋市では、平成 19 年度に「子どもあんしん電話相談」が開設されたため件数の著しい減少が見られた（図 3）。



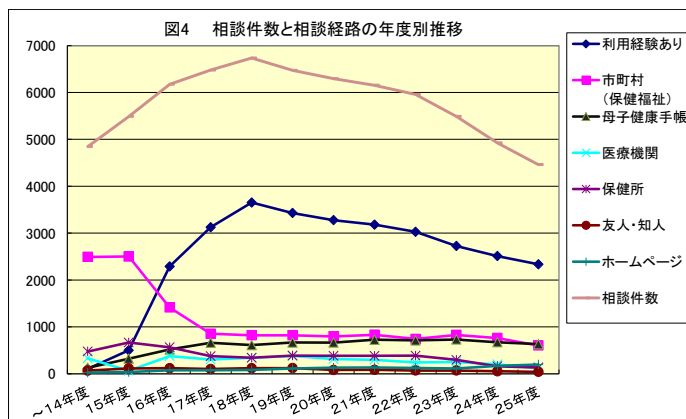
出生 1,000 に対する割合をみると、最も高いのは津島市の 228.9（昨年度 165.2）で次いで常滑市の 207.9（昨年度 69.6）、昨年度最も多かった大府市は 170.2（昨年度 208.4）で 3 番目の順位であった。津島市や蟹江町 151.8（昨年度 46.4）、あま市 124.5（昨年度 73.3）では、同一相談者と思われるケースで居住市町村名を転々とさせながら相談しているケースがあり、常滑市も頻回相談者があるため今年度の件数を引き上げていた。また、弥富市の 163.0（昨年度 165.2）は、長年にわたる頻回相談者と思われるケースから年間 30 回もの相談がある（資料：表 1）。

(2) 経路について

「利用経験あり」が 2,335 件（52.3%）で最も多かった。「利用経験あり」が全体として減少する一方、先に相談者の居住地で触れたような頻回相談者が含まれており、時間外電話相談の適切な利用とはやや性質が異なるため、

課題となっている。

初回相談者が相談電話の情報を入手した方法は、母子手帳交付時にもらった「案内カード」によるものが14.2%、市町村（保健福祉）からが13.5%、保健所から3.0%など、保健機関からの情報によるものが初回相談者の半数以上を占めている。全相談件数が減少する一方でインターネット、スマートフォンの普及によりホームページからの割合が30件増加（1.0%）している。また、県外からの相談54件のうち半数（27件、50.0%）がホームページからの情報であった（資料：表2、図4）。



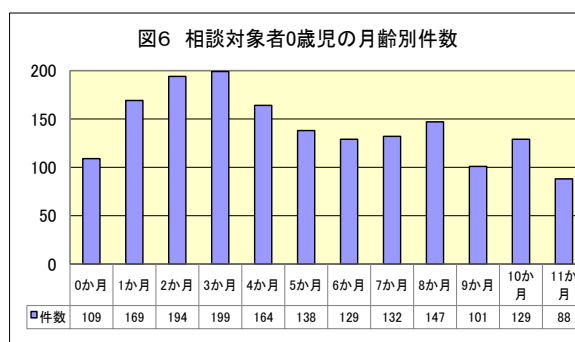
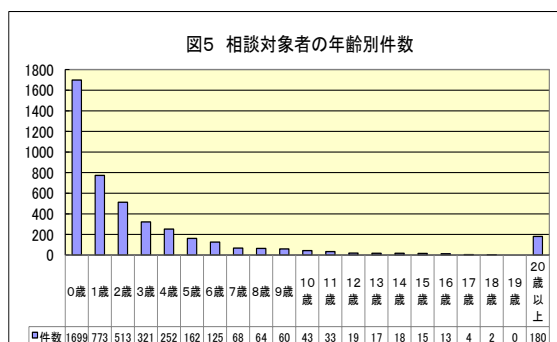
3 相談者・相談対象者について

相談記録では、相談者（電話をかけてきた人）の続柄を相談対象者との関係から本人、母、父、配偶者、祖父母等、兄弟、専門職、その他と分類しているが、母からの相談が92.1%と最も多かった。（資料：表3）。

相談対象者は「子ども」が4,219件（94.6%）であった。「孫・甥・姪等」が22件（0.5%）、「本人」（母自身のことに関する相談など）は200件（4.5%）であり、経年的にみてもほぼ4%前後の相談がある。（資料：表4）。

相談対象者の年齢では、0歳が1,699件（38.1%）と最も多く、昨年度の35.9%同様4割弱であった。0歳に次いで、1歳が773件（17.3%）であり、昨年度に比べ3.5ポイント減少している。2歳以降の対象者に関する件数は、年齢の上昇に伴い減少していた（図5）。

0歳児の内訳を見ると4か月頃をピークに増減しており、経年的に見ても同様の傾向であった（図6）。



4 相談の時間帯・所要時間・曜日について

(1) 時間帯・所要時間について

相談の時間帯は 17 時台 1,261 件 (28.3%) と最も多く、次いで 18 時台が 1,124 件 (25.2%) であった。

相談の所要時間は、15 分未満が 3,399 件 (76.2%) で、そのうち 5~14 分が 55.4% であった (資料: 表 5)。

相談内容により、所要時間は異なり、子どもの病気・手当や事故相談では平均して時間が短く、育児不安を含む家族・人間関係や教育、母自身の相談である女性の体と心の相談等では、所要時間が長くなっている (図 7)。

(2) 曜日について

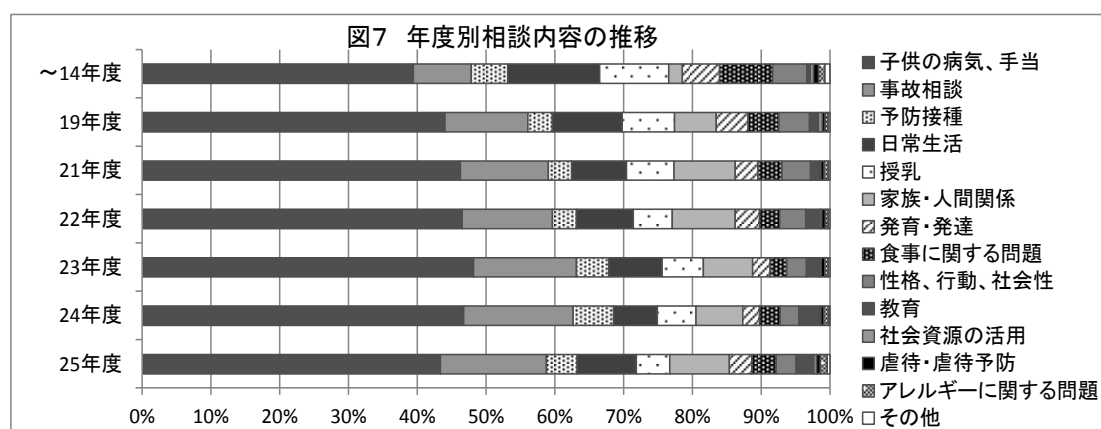
曜日別では稼働日数の多い木曜日が 968 件、水曜日が 966 件と多く、日数で平均するとほとんど差がない。1 日あたりの相談件数でみると火曜日、が最も多く (19.3 件)、金、土曜日 (17.2 件) の順であった (資料: 表 6)。曜日別相談内容では、「子どもの病気、手当」「家族・人間関係」で差がみられた (表 8)。

5 相談内容について

(1) 相談内容について

相談員が相談記録作成時に分類した相談内容では、「育児相談」が 4,259 件 (95.5%) と大半を占め、次いで母性相談 68 件 (1.5%)、女性の心と体の相談 32 件 (0.7%) の順であった。(資料: 表 7)。

「育児相談」4,259 件の内訳は「子どもの病気、手当」が 1,846 件 (43.3%) と最も多く、次いで「事故相談」の 656 件 (15.4%)、「家族・人間関係」370 件 (8.7%)、「日常生活」の 368 件 (8.6%) の順で多かった。相談内容の推移から「子どもの病気・手当」「事故相談」「予防接種」といった子どもの病気や体調に関する相談の割合が 24 年度まで年々増加し、合計で 68.6% となっていたが、24 年度に 365 日体制になった『小児救急電話相談 (#8000)』



が住民へ浸透したためか、25 年度には 63.2% となっている。(図 7)。

曜日別では、土曜日の「子どもの病気、手当て」の相談の割合 56.1%は他の曜日の平均 40.0%と比べ 16.1%高く、「家族・人間関係」は他の曜日の平均 9.8%と比べ 4.6%と 5.2%低く特徴的である（資料：表 8）。

（2）育児相談の内容について

本年度の育児相談 4,259 件の主な内容について資料：表 9 に示した。

1) 「子どもの病気、手当て」 1,846 件（43.3%）

目の前の子どもの症状、病状への対応についてのアドバイス、受診の要否についての相談が多く、熱や鼻汁等のかぜ症状、下痢、嘔吐等の消化器症状、発疹等皮膚症状、インフルエンザ等の感染症の順に多かった。また、処方された薬の飲ませ方や使い方等の薬に関する相談 59 件も含まれている。その他、猛暑下での熱中症に関する相談も見られた。

<相談例>

- ・ 生後 15 日目の児、胆道閉鎖症便色カードで本日は「3」あたりだが、受診は必要か。黄疸はない。排尿は変わらず。
- ・ 2 か月児、熱が 38.7℃で母乳も飲んで眠りも問題ない。朝から熱が 37.5～37.7℃あり鼻汁が透明から今は緑色になっている。
- ・ 6 か月児、昼過ぎに豆腐を食べさせたら発疹が出た。顔に 1、2 個だったが、入浴させようと裸にしたらお腹の周りにも出ている。どうしたらよいか。
- ・ 9 か月児、昼間にバスに 1 時間程度乗車したが車内が非常に暑かった。現在 38℃台の熱でややぐったりしているが大丈夫だろうか。
- ・ 10 か月児、39℃以上の熱が 3 日間続いている。元気もあるが心配。医師は薬で様子を見るようにと指示。鼻汁や咳はない。突発疹はかかっている。

0 歳児の相談内容では、昨年度同様かぜ症状（219 件）よりも消化器症状の相談（255 件）の方が多く、1 歳以上ではかぜ症状が多かった。

受診するべきかを問う相談や、どう行動すべきか意思決定をするための相談が多く、「かかりつけ医を受診し、内服薬や坐薬をもらってあるが不安。」といった電話も少なくない。保護者が現状をどう捉えているかをよく聴き、今できていることを認めることも重要である。家庭看護力の低下が指摘されている中、発熱の生理的意味から、“様子を見る”とはどういうことか、受診に切り替えるタイミングまでを十分に説明する等、保護者をエンパワーメントできる相談となるよう心掛けている。

2) 「事故相談」 656 件（13.9%）

「誤飲・誤嚥」が 235 件（35.8%）と最も多く、次いで「転落」、「転倒」、「衝突」、「熱傷」と続く。また、事故相談全体で 1 歳未満の子どもについての相談が 248 件（37.8%）を占めていた。

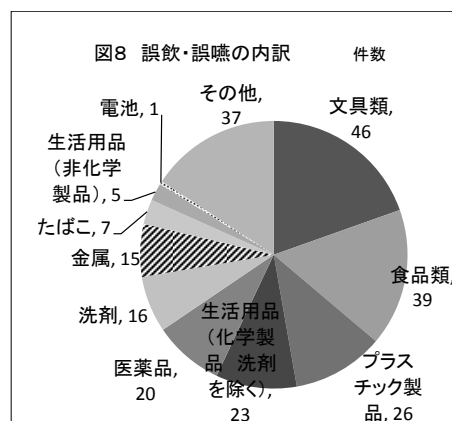
< 誤飲・誤嚥 >

誤飲・誤嚥も内容により、緊急性が異なる。その内容を図8に示す。

・「文具」46件中、紙類が19件(41.3%)と最も多く、次いで消しゴムなどのゴム類8件(17.4%)、ビニール類7件(15.2%)であった。

・「食品」39件中、0歳児では、はちみつの誤使用が2件(5.1%)あった。魚(さんま、さば、鯛、キス等)の骨が9件(23.1%)と最も多く、生肉、飴玉がともに7件(17.9%)、酒類2件(5.1%)であった。

・「医薬品」20件中、6か月児をはじめに0歳が4件、1歳児14件、2歳児2件であった。「大人の解熱・鎮痛剤を口にした」が7件(35.0%)と最も多く、「軟膏類等の外用薬を舐めた」が6件(30.0%)、「家族の糖尿病治療薬を飲んだ」2件(10.0%)、「兄弟の薬を飲ませ間違えた」等があり、早急な受診を勧めたものも2件(10.0%)あった。



< 転落・転倒 >

・「転落」116件中、椅子からが34件(29.3%)、家具28件(25.0%)、階段9件(7.8%)、遊具8件(6.9%)であった。8か月児で「2階から1階まで落ちた」ケース、5か月児を「風呂で湯船に落としたが、すぐに拾い上げた」ケースもあった。「階段からの転落で、鼻が腫れあがっている」ケースでは、受診を勧めた。

・「転倒」116件中、居室での転倒が63件(54.3%)と最も多く、お座りしていて後ろに倒れる、つかまり立ち中にバランスを崩してテーブルにぶつかる等が多く、口腔内の出血が3件(2.6%)あった。道路12件(10.3%)、風呂9件(7.8%)と続き、道路での転倒では、コンクリートに頭をぶつけるケースが多く、1歳から7歳までの相談があった。

< 熱傷 >

・熱傷34件中、0歳児が11件(32.4%)であった。熱傷で最も多いのは「卓上のお湯、熱いスープ等」11件(32.4%)で、大人の味噌汁、スープ等によるものも多く、水疱になったり、広範囲であったり、受診を勧めることも少なくない。他、ストーブ5件(14.7%)、電気機器(アイロン、ホットプレート等)5件(14.7%)、ポット・炊飯器4件(11.8%)であった。

事故相談では、保護者の事故に対する焦りや自責の気持ちに寄り添い、状況を的確に捉えて、冷静な対応を促す。乳幼児の事故相談は、環境整備

により防ぐことが可能なものが大半である。起こったことを客観的に振り返ることが次の事故の予防となることを啓発する必要がある。

3) 「家族・人間関係」 370 件 (8.7%)

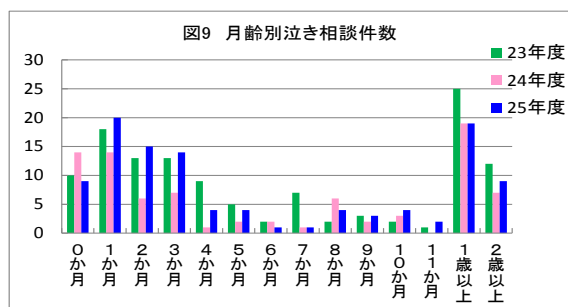
「育児不安」が 265 件 (71.6%) で最も多く、次いで「家族内の人間関係」71 件 (26.8%)、「近所との付き合い」23 件 (6.2%) と続き、「育児不安」の割合が昨年度の 61.3% より 10.3 ポイント増加している。

「育児不安」では、1 か月児の母からの「日中に泣くことが多く家事ができない。」という相談から、15 歳の子の「高校生の娘とコミュニケーションがとれない。」といった相談まで様々な相談が持ち込まれている。「家族内の人間関係」では、「夫は育児に無関心」「夫の親・姉妹との関係性」に関する相談が多く、「近所との付き合い」では、子ども会、保育園・幼稚園のママ友、近隣の年長者等子どもを介して広がる社会に対するストレスに対する相談が多かった。

これら「家族・人間関係」の相談では、260 件 (70.3%) が「利用経験あり」で、そのうち 123 件 (47.3%) が 7 歳以上の子を持つ親または親自身の相談であった。

4) 「日常生活」 368 件 (7.8%)

「日常生活」の相談が、昨年度の 298 件より 70 件、1.5% 増加している。「泣き」についての相談が 109 件 (29.6%) と最も多く、そのうち 0 歳児の相談が 81 件 (74.3%)、中でも 1～3 か月の相談が多く見られた (図 9)。



生後 6 週間くらいから見られる夕暮れ泣き (『PURPLE CRYING』) の相談は、昨年度減少していたが、今年度は 23 年度と同様な形に戻っている。『乳幼児揺さぶられ症候群』の予防のためにも「泣き」への対応策を早い段階から啓発する必要性が示唆される。

<相談例>

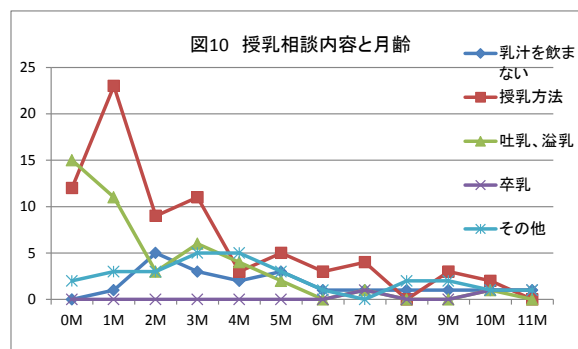
- ・ 1 か月児、夕方から寝付くまで泣くがどうしたらよいのか。抱けば泣き止む。昼間は泣かないし、夜は 4 時間寝てくれる。夕飯の支度や兄の食事で忙しい時間に泣くので困る。

「睡眠」に関する相談が 87 件 (23.6%) 昨年度の 31 件に比べ 56 件増加していた。頻回相談者と思われるケースからの相談が少なくとも 8 件含まれている。「しつけ」33 件 (9.0%)、「トイレトレーニング」27 件 (7.3%)

「遊び・遊ばせ方」9件（2.4%）と続く。

5) 「授乳」206件（4.4%）

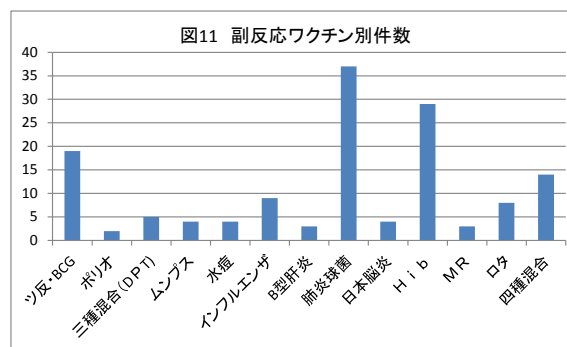
具体的な相談内容と月齢を図10に示す。「授乳方法」に関する相談が生後1か月をピークに80件（38.8%）認められ、授乳回数、間隔、量、眠りとの関連等の相談が主であった。次いで、0か月児に多い「吐乳、溢乳」43件（20.9%）、「授乳と薬」22件（10.7%）と続く。「授乳と薬」では



体調が悪いつらさに加え、授乳に悩むつらさに寄り添い、科学的根拠に基づいた適切な助言ができるよう相談の質の向上を図っている。

6) 「予防接種」191件（4.1%）

本年度から Hib、小児の肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチンが定期予防接種となり、接種機会も増える中、相談件数は昨年度と比較して86件（1.8%）減少した。副反応のワクチン別件数は図11のとおりで、Hib、肺炎球菌ワクチンの同時接種後の一過性の発熱等の相談やBCGの針痕についての相談が多かった。



7) その他

・ 1歳男児、育てにくく、気に入らないこと（着替え・おむつ替え・食事・就寝など）があると泣く。母自身の体調が悪く2回程手をあげてしまった。今回、罪悪感を持たなかった自分が怖くなり電話した。

「虐待・虐待予防」は24件（0.5%）であり昨年度同様の数であった。

「7歳男児、性に興味があり、着替えの時に娘をじっと見たり、スカートの中を見ている。ふざけて娘の胸を触ったりする。」と、性刺激をどこかで受けていることが懸念される重たいケースに出会うことがあった。

原則、匿名相談ではあるが、気になるケースについては、相談対象が明確でなくともできる限りの情報を用いて地域連携を行っている。

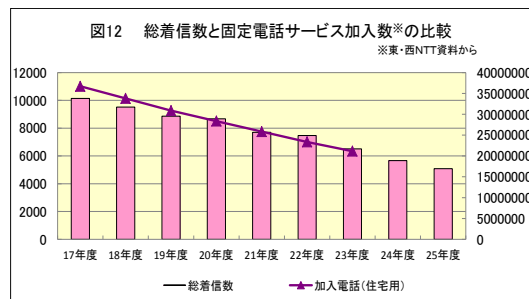
6 相談結果について

電話相談は原則匿名で1回の相談での終了が前提となっているため、利

用経験がある場合も継続支援とはしておらず、1回で終了としている。

7 本年度の相談の結果から

相談件数の推移から 18 年度以降減少傾向にある。総務省の調査では、住宅用固定電話の加入数は平成 17 年頃まで平坦だったが、以降減少してきている。固定電話保有率は平成 23 年度 20 歳代 20.1%、30 歳代



58.6%となっており、携帯電話・スマートフォンの普及から、インターネットによる相談にもアクセスが簡便になったことや通話費用負担が大きくなりがちな電話相談の利用が敬遠される状況であることが推測される。

先の相談内容の推移 (P4)にあるように、『小児救急電話相談 (#8000)』の 365 日対応に伴い「子ども病気・手当」「事故相談」「予防接種」の子どもの体調にかかわる相談が減少している (532 件) ことが本年度の件数減少の要因であると考えられる。しかしながら、『小児救急電話相談 (#8000)』や名古屋市の『子どもあんしん電話相談』では、こどもの健康にかかわる相談が主な対象としており、「育児不安」「泣き」「授乳」等がうまくいかない苛立ちや不安を受け止める窓口としての役割を担っている。

8 まとめ

本事業は平成 13 年 11 月のセンター開設と同時に開始され、関係機関からも高い認知度と期待を受けて運営されてきた。社会の育児問題が反映されており、ニーズ把握に役立てることができる貴重な機会でもある。県内の小児保健の中核的支援機能を有する当センターの保健事業のひとつとして、今後も継続する必然性がある。

表1 市町村別の利用状況					資料				
	市町村	件数	出生 1,000対	H24 出生数		市町村	件数	出生 1,000対	H24 出生数
1	名古屋市	924	47.1	19,610	30	みよし市	42	65.9	637
2	豊田市	205	50.0	4,101	31	豊明市	41	68.4	599
3	豊橋市	204	61.2	3,333	32	瀬戸市	40	43.4	922
4	東海市	176	137.2	1,283	33	東浦町	37	92.3	401
5	大府市	170	170.2	999	34	碧南市	35	55.3	633
6	安城市	167	82.3	2,029	35	高浜市	32	66.3	483
7	一宮市	153	47.3	3,235	36	江南市	31	37.9	818
8	岡崎市	145	38.7	3,746	37	尾張旭市	31	45.9	676
9	刈谷市	134	77.7	1,724	38	扶桑町	30	94.3	318
10	常滑市	105	207.9	505	39	田原市	26	48.1	540
11	日進市	102	97.6	1,045	40	大治町	25	76.7	326
12	春日井市	100	32.9	3,041	41	愛西市	22	57.7	381
13	清須市	100	139.7	716	42	幸田町	21	46.3	454
14	豊川市	99	58.1	1,705	43	犬山市	18	32.5	553
15	あま市	93	124.5	747	44	阿久比町	12	38.0	316
16	津島市	92	228.9	402	45	美浜町	12	87.0	138
17	知立市	84	106.3	790	46	新城市	9	28.6	315
18	半田市	80	75.7	1,057	47	岩倉市	8	18.1	441
19	知多市	78	110.2	708	48	豊山町	6	41.1	146
20	西尾市	72	49.0	1,468	49	大口町	6	28.0	214
21	弥富市	66	163.0	405	50	南知多町	3	28.0	107
22	東郷町	57	144.7	394	51	飛島村	1	30.3	33
23	北名古屋市	55	63.1	872	52	東栄町	1	66.7	15
24	武豊町	50	121.7	411	53	設楽町	0	0.0	29
25	稲沢市	49	42.6	1,149	54	豊根村	0	0.0	3
26	長久手市	49	71.6	684		県内不明	34	0.7	48,303
27	蟹江町	46	151.8	303		愛知県下 (含名古屋市)	4,266	62.8	67,913
28	小牧市	45	33.5	1,345		他県	54		
29	蒲郡市	43	70.7	608		不明	141		
						合計	4,461		

表2 年度別経路

経路	利用経験あり	市町村(保健福祉)	母子健康手帳	医療機関	保健所	友人・知人	ホームページ	子育て支援センター	院内	幼稚園・保育園等	学校	児童相談センター	その他	不明	計
14年度※	105 (2.2)	2,492 (51.4)	128 (2.6)	328 (6.8)	475 (9.8)	66 (1.4)	25 (0.5)	37 (0.8)	53 (1.1)	52 (1.1)	3 (0.1)	19 (0.4)	155 (3.2)	908 (18.7)	4,846 (100.0)
15年度	501 (9.1)	2,500 (45.6)	322 (5.9)	63 (1.1)	667 (12.2)	113 (2.1)	36 (0.7)	16 (0.3)	8 (0.1)	667 (12.2)	49 (0.9)	16 (0.3)	204 (3.7)	430 (7.8)	5,488 (100.0)
16年度	2,290 (37.1)	1,414 (22.9)	517 (8.4)	377 (6.1)	565 (9.1)	119 (1.9)	74 (1.2)	35 (0.6)	80 (1.3)	21 (0.3)	5 (0.1)	10 (0.2)	220 (3.6)	448 (7.3)	6,175 (100.0)
17年度	3,124 (48.2)	854 (13.2)	661 (10.2)	303 (4.7)	376 (5.8)	102 (1.6)	76 (1.2)	24 (0.4)	69 (1.1)	19 (0.3)	11 (0.2)	7 (0.1)	175 (2.7)	677 (10.5)	6,478 (100.0)
18年度	3,652 (54.2)	821 (12.2)	611 (9.1)	343 (5.1)	340 (5.0)	118 (1.8)	81 (1.2)	43 (0.6)	32 (0.5)	6 (0.1)	4 (0.1)	9 (0.1)	121 (1.8)	554 (8.2)	6,735 (100.0)
19年度	3,429 (53.0)	821 (12.7)	666 (10.3)	379 (5.9)	387 (6.0)	120 (1.9)	112 (1.7)	35 (0.5)	45 (0.7)	7 (0.1)	2 (0.0)	4 (0.1)	52 (0.8)	412 (6.4)	6,471 (100.0)
20年度	3,276 (52.0)	796 (12.6)	665 (10.6)	315 (5.0)	383 (6.1)	80 (1.3)	129 (2.0)	40 (0.6)	35 (0.6)	3 (0.0)	3 (0.0)	3 (0.0)	74 (1.2)	492 (7.8)	6,294 (100.0)
21年度	3,180 (51.7)	832 (13.5)	725 (11.8)	297 (4.8)	382 (6.2)	84 (1.4)	135 (2.2)	23 (0.4)	13 (0.2)	7 (0.1)	4 (0.1)	3 (0.0)	52 (0.8)	416 (6.8)	6,153 (100.0)
22年度	3,027 (50.8)	743 (12.5)	711 (11.9)	240 (4.0)	385 (6.5)	68 (1.1)	122 (2.0)	27 (0.5)	9 (0.2)	8 (0.1)	4 (0.1)	4 (0.1)	41 (0.7)	571 (9.6)	5,960 (100.0)
23年度	2,725 (49.7)	828 (15.1)	730 (13.3)	250 (4.6)	295 (5.4)	68 (1.2)	113 (2.1)	29 (0.5)	18 (0.3)	10 (0.2)	2 (0.0)	1 (0.0)	39 (0.7)	380 (6.9)	5,488 (100.0)
24年度	2,509 (51.0)	762 (15.5)	671 (13.6)	201 (4.1)	158 (3.2)	53 (1.1)	167 (3.4)	32 (0.7)	31 (0.6)	2 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	31 (0.6)	305 (6.2)	4,923 (100.0)
25年度	2,335 (52.3)	602 (13.5)	632 (14.2)	117 (2.6)	134 (3.0)	41 (0.9)	196 (4.4)	24 (0.5)	28 (0.6)	9 (0.2)	3 (0.1)	2 (0.0)	26 (0.6)	312 (7.0)	4,461 (100.0)

※13年11月から15年3月までの集計値

表3 相談者の続柄

相談者続柄	件数	割合
母	4,108	92.1%
本人	203	4.6%
父	118	2.6%
祖父母等	21	0.5%
配偶者	5	0.1%
きょうだい	1	0.0%
専門家等	1	0.0%
その他	2	0.0%
不明	2	0.0%
合計	4,461	100.0%

表4 相談対象者

	件数	割合
子ども	4,219	94.6%
本人	200	4.5%
孫・甥・姪等	22	0.5%
配偶者	14	0.3%
きょうだい	0	0.0%
患者等	0	0.0%
その他	3	0.1%
不明	3	0.1%
総計	4,461	100.0%

表5 時間帯と所要時間

所要時間	17時台	18時台	19時台	20時台	不明	合計
5分未満	223 17.7%	237 21.1%	245 22.2%	215 22.8%	6 20.0%	926 20.8%
5～14分	688 54.6%	623 55.4%	614 55.6%	536 57.0%	12 40.0%	2,473 55.4%
15～29分	248 19.7%	184 16.4%	175 15.8%	152 16.2%	8 26.7%	767 17.2%
30～44分	73 5.8%	53 4.7%	50 4.5%	29 3.1%	1 3.3%	206 4.6%
45～59分	23 1.8%	20 1.8%	19 1.7%	9 1.0%	1 3.3%	72 1.6%
60分以上	6 0.5%	7 0.4%	2 0.1%	0 0.0%	2 20.0%	17 0.4%
全体	1,261 28.3%	1,124 25.2%	1,105 24.8%	941 21.1%	30 0.7%	4,461 100.0%

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	月曜日	全体
H15年度以前	2,802 19.3%	3,162 21.8%	3,341 23.1%	3,037 21.0%	502 3.5%	1,684 11.6%	14,492 100.0%
H16年度	1,264 20.5%	1,423 23.0%	1,349 21.8%	1,277 20.7%	862 14.0%		6,175 100.0%
H17年度	1,359 21.0%	1,438 22.2%	1,349 20.8%	1,267 19.6%	1,065 16.4%		6,478 100.0%
H18年度	1,289 19.1%	1,425 21.2%	1,506 22.4%	1,320 19.6%	1,195 17.7%		6,735 100.0%
H19年度	1,221 18.9%	1,480 22.9%	1,395 21.6%	1,262 19.5%	1,113 17.2%		6,471 100.0%
H20年度 (1日平均件数)	1,160 (27.6) 18.4%	1,365 (27.9) 21.7%	1,406 (27.6) 22.3%	1,223 (24.5) 19.4%	1,137 (22.3) 18.1%		6,294 (25.9) 100.0%
H21年度 (1日平均件数)	1,159 (27.0) 18.8%	1,321 (27.5) 21.5%	1,301 (27.1) 21.1%	1,255 (24.6) 20.4%	1,117 (21.9) 18.2%		6,153 (25.5) 100.0%
H22年度 (1日平均件数)	1,163 (25.8) 19.5%	1,239 (25.3) 20.8%	1,290 (26.9) 21.6%	1,191 (23.8) 20.0%	1,077 (21.1) 18.1%		5,960 (24.5) 100.0%
H23年度 (1日平均件数)	1,055 (23.4) 19.2%	1,165 (22.8) 21.2%	1,149 (23.4) 20.9%	1,056 (21.6) 19.2%	1,063 (20.8) 19.4%		5,488 (22.4) 100.0%
H24年度 (1日平均件数)	946 (19.7) 19.2%	1,033 (20.7) 21.0%	1,107 (22.1) 22.5%	871 (17.4) 17.7%	966 (18.9) 19.6%		4,923 (19.8) 100.0%
H25年度 (1日平均件数)	791 (19.3) 17.7%	966 (18.9) 21.7%	968 (19.0) 21.7%	842 (17.2) 18.9%	894 (17.2) 20.0%		4,461 (18.3) 100.0%

表7 相談分類

相談分類	件数	割合
育児相談	4,259	95.5%
母性相談	68	1.5%
女性の心と体の相談	32	0.7%
思春期相談	19	0.4%
その他	83	1.9%
合計	4,461	100.0%

表8 育児相談の曜日別状況

内容	全体	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
子供の病気、手当	1,846 43.3%	283 37.5%	358 39.3%	395 42.7%	324 40.4%	486 56.1%
事故相談	656 15.4%	102 13.5%	147 16.1%	135 14.6%	141 17.6%	131 15.1%
家族・人間関係	370 8.7%	69 9.2%	85 9.3%	89 9.6%	87 10.9%	40 4.6%
日常生活	368 8.6%	70 9.3%	92 10.1%	78 8.4%	68 8.5%	60 6.9%
授乳	206 4.8%	35 4.6%	42 4.6%	56 6.0%	24 3.0%	49 5.7%
食事に関する問題	150 3.5%	32 4.2%	36 4.0%	27 2.9%	32 4.0%	23 2.7%
発育・発達	139 3.3%	36 4.8%	30 3.3%	29 3.1%	30 3.7%	14 1.6%
予防接種	191 4.5%	43 5.7%	47 5.2%	47 5.1%	26 3.2%	28 3.2%
性格、行動、社会性	124 2.9%	32 4.2%	29 3.2%	21 2.3%	33 4.1%	9 1.0%
教育	110 2.6%	27 3.6%	23 2.5%	30 3.2%	24 3.0%	6 0.7%
アレルギーに関する問題	42 1.0%	9 1.2%	4 0.4%	10 1.1%	6 0.7%	13 1.5%
虐待・虐待予防	24 0.6%	8 1.1%	8 0.9%	4 0.4%	2 0.2%	2 0.2%
社会資源の活用	17 0.4%	4 0.5%	5 0.5%	4 0.4%	3 0.4%	1 0.1%
その他	16 0.4%	4 0.5%	5 0.5%	1 0.1%	1 0.1%	5 0.6%
計	4,259 100.0%	754 17.7%	911 21.4%	926 21.7%	801 18.8%	867 20.4%

編集	あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室 〒474-8710 大府市森岡町尾坂田 1 番 2 TEL 0562-43-0500 内線 4042
発行	平成 26 年 4 月